



今日のテーマは外来植物です。河原ではいろいろな外来植物が見られます。在来の植物が繁茂している場所には、外来種もなかなか入り込む余地がありませんが、河川工事で表土が剥がされたり、洪水でそれまでの群落が流されたり、埋まったりすると、外来種が侵入するスキが生じるためでしょうか。種子が流されて来たり、工事で持ち込まれた土や肥料に混じっていたりして居着くことも考えられます。

ぜひ見て欲しかったものはヒサウチソウ(ウツボグサ科)です。地中海沿岸原産の半寄生草本で、1982年に名古屋で初めて確認され、外来植物研究者の久内清孝氏を記念して名付けられたそうです。138タワーの北の南派川の右岸表護岸と、タワーから500m程上流の左岸裏護岸に群生しており、丁度花が見頃でした。私は、まだここでしか見たことがありません。駆除が難しい植物ということで、分布が広がらないか心配です。観察中、山口さんが南側斜面しか生えていないことを指摘されました。そういえば、右岸、左岸とも南側だけに分布していました。

ヒサウチソウが生えている近くの表護岸では、オオキンケイギク(特定外来生物)、マツヨイグサ、シロバナマンテマ、やや時期を過ぎたイヌコモチナデシコなどがよく目につきました。高水敷ではシロノヂシャ(オミナエシ科)を見ました。近くにニワゼキショウ、オオニワゼキショウがあり、その交雑種のアキマルニワゼキショウ(仮称)も見られました。他に花が小さなニワゼキショウの仲間があり、アイイロニワゼキショウかと思われます。



(ヒサウチソウ)

堤防道路の脇にヒメスイバが風に揺れ、その間にブタナとヒメブタナが咲いていて、花の大きさや葉に生える毛の有無を比較することができました。少し行ったところには丁度花の時期でよく目立つ外来のナヨクサフジがところどころに群落を作っていました。同じマメ科のカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサもほぼ同じ所に生えていました。

先月、高水敷で黄色のアブラナ科の花が一面に咲いていた辺りは、すっかりようすが変わっていました。しっかり探すとわずかにその花と実がありました。通信の報告にヒメクジラグサではないかと書きましたが、後で調べたところ外来のケナシイヌナズナでした。今日、参加者から葉や茎に毛があると指摘され、それではイヌナズナだったかと思いましたが、図鑑を見るとケナシイヌナズナは果実に毛がないということなので、ケナシイヌナズナでよいはずです。それにしても、この時期の花の変化が早いのは驚かされました。

大野極楽寺公園ではヤナギの仲間の果実に着く綿毛が積もっていました。どの木から飛んできたか探しましたが、木が繁っていてわかりませんでした。

水路で外来のオオカワヂシャが数株小さな青い花をつけていました。在来のカワヂシャ(準絶滅危惧)はよく似ていますが白花で、一宮や岩倉の農業用排水路でたまに見かけますが、オオカワヂシャはこれまで見ていませんでした。なお、同じ水路には特定外来生物に指定されているオオフサモも生えていました。

単調なフィールドですが、外来種に注目すればいろいろなものが見られて面白い場所です。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

花:ヘラオオバコ、ツボミオオバコ、コマツヨイグサ、ユウゲショウ、ハルジオン、キキョウソウ、オッタチカタバミ、アメリカフウロ、マツバウンラン、シロツメクサ、コメツブツメクサ、ナギナタガヤ(以上、外来)、ヒナギキョウ、コウゾリナ、ノアザミ、ノイバラ、ナワシロイチゴ、ノミノツヅリ、エゴノキ

鳥:キジ(声)、キジバト、ツバメ、ヒバリ、オオヨシキリ(声)、ウグイス(声)、シジュウカラ、エナガ、カワラヒワ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス 昆虫:キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、ナガサキアゲハ、ゴマダラチョウ、コムシジ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、テングチョウ、ツバメシジミ、コチャバネセセリ、セイヨウミツバチ、クマバチ、シオカラトンボ